

## 血行不良の病態 温経湯使い治療

**Q** 三十二歳、女性。数年前から生理不順になり、非常に多い月と全くない月があります。いつも腹部がはつているように感じ、生理の時に下腹部痛、頭痛、腰痛が強くなります。また手指が荒れてかゆくなり、夏には水疱（すいほう）のようなものができ、冬には亀裂が生じるほど乾燥して痛みます。手のひらや唇も乾きクリームを常用しています。冷え性ですが手のひらや足がほてることもあります。漢方によい薬はありますか。

**A** おそらく手掌角皮症（しゅしょうかくひしよう）といわれる病気である。現代医学では一般に月経の異常に関する症状は婦人科で治療し、皮膚の症状は皮膚科で治療する。ところが漢方

医学は種々の症状や兆候はからだ全体のゆがみや異常に関連しているのとらえる。月経異常や腹部の膨満感、頭痛、手指や手のひら、唇の乾燥は血行不良を基盤とした共通の病態と考える。この女性は瘀血（おけつ）という病態で、微小な循環障害による痛みや皮膚の血行不良が原因とみられる。

こうした病態を治す漢方薬としてまず温経湯（うんけいとう）があげられる。血行を良くし、皮膚を潤し、痛みをとり、冷えやほてりを治す処方である。同様の皮膚症状で、眼のまわりの隈（くま）や肩こり、胃腸障害、イライラなどの症状があれば、加味逍遙散（かみしょうようさん）や桂枝茯苓丸（けいしぶくりようがん）などが使われる。